

Ⅳ 原田遺跡の韓式系土器・陶質土器について

1. 古墳時代後期の韓式系土器・陶質土器

今回調査した原田遺跡では、複数の溝状遺構より韓式系土器・陶質土器の出土を見ているが、これらの遺構より出土した遺物のうち、SD-01で若干数の古墳時代中期に溯るものがあるものの、遺物は古墳時代後期後半を主体とし、古墳時代中期に比定される遺物は、韓式系土器の出土量と比較しても明らかに少ない。また、SD-03は深さ約30cmのごく浅い溝であったが、完形品をかなり含む後期の須恵器とともに完形の蓋形土器が出土している。この形態の須恵器は、現在まで中期の遺跡以外にはみられない舶載土器、初期須恵器としてとりあつかわれているものである。でありながら、その出土状況から中期のものの混入とすることにはためらいを感じる。そこで古墳時代後期に位置付けられている韓式系土器・陶質土器と原田遺跡出土のものとの比較からこれらの帰属年代を考えてみたい。

韓式系土器・陶質土器は後掲の一覧表を見ていただければわかるように、その共伴遺物から時期決定のできる資料はごく限られている。これは、韓式系土器・陶質土器自体の特殊性、あるいは希少性によるものであるのに加え、出土遺構の多くが溝、自然流路といった存続期間の長いものであることから、時期の特定が非常に難しいのである。

しかし多くの場合、同一遺跡内より初期須恵器が出土することから、概ねその時期を韓式系土器の年代に当てることがなされている。これは須恵器生産体制の確立経緯からみても当然の結果といえる。さらにそのことから派生して、韓式系土器の年代を古墳時代中期に推定することも蓋然性が高いといえよう。むしろ関川尚功氏が指摘されているように、この時期の土器組成のなかに韓式系土器をも組み入れて考えるべきかもしれない（註1）。

その一方で、後期まで下がる例が若干報告されている。近畿地方の後期に位置付けられている韓式系土器・陶器出土遺跡を府県別に見てみると、兵庫1遺跡、大阪7遺跡、奈良9遺跡（原田遺跡を含む）、和歌山7遺跡、京都5遺跡、滋賀3遺跡となり奈良、和歌山、京都に顕著であることがわかる（註2）。

次に遺跡の種類に目を移すと、集落遺跡が全体の約52%で半数となる。これは中期の近畿中央地域で集落遺跡が墳墓を圧倒していたのに比べ、顕著な差といえよう。特に後期の大阪の集落遺跡の減少が著しく反映しているといえる。後期の集落遺跡から中期の特に大阪に見られたようなまとまった数の出土は見られなくなる。これは古墳時代中期後半にピークを迎えた渡来人の流入が後期に至って、著しく減少したことを意味している。また、これらの遺跡が大阪より周辺部に拡散している状況は、河内、和泉での渡来人による開発が一段落し、その周辺部を新たに開発すべく政治的意図があったのかもしれない。

中期に比べ後期の韓式系陶質土器の大きく異なる点は、初期須恵器のとしてとらえられる土器の極端な減少であるといえる。むしろ初期須恵器と呼ばれるものは、後期には存在しないのだから、当然その系譜を追うことはできないのであるが、須恵器が定型化してもなお、依然として朝鮮半島の土器を模倣した土器を生産した窯跡が見つかっているのである。例えば兵庫県の金ヶ崎窯では、角杯が出土している（註3）。このことについて、木下亘氏は須恵器の定型化以降も新来の渡来人が半島色の濃い須恵器を生産していたと推定されている（註4）。このような窯の存在は消費遺跡で定型化した須恵器とは異なる須恵器がみつまっていることからいづれか存在したのだろう。

古墳時代後期の特徴として重要な点は、韓式系の陶質土器と軟質土器に重複することが、かなり少なくなった点だろう。原田遺跡はこの点では後期的ではない例と言えよう。

それぞれについて出土する遺跡を見てみると、陶質土器では奈良の星塚1・2号墳、また7世紀代になるが石光山43号墳、和歌山前山A46号墳、花山6号墳、兵庫笠ヶ塚古墳、滋賀入江内湖遺跡等である。これらの土器は容易に故地をもとめうる極めて半島色の強いもので、このことは先程述べた純然たる舶載土器の割合の増加に関連している。陶質土器は古墳の副葬に用いられたものが多いと見られるが、入江内湖遺跡のような生活遺跡でも見られ、しかもここでは幾度かの発掘調査にもかかわらず、軟質土器は確認されず、渡来人の生活を裏付けることはできない。また中期から陶質土器を古墳に副葬することの顕著な和歌山県、兵庫県に後期に至ってもこの傾向が見られることが指摘できる。ただし、兵庫県の場合はこの傾向は播磨地域により顕著で、また時期的にもほぼ1世紀の隔たりがある。

次に軟質土器出土の遺跡であるが大阪の郡遺跡、大県遺跡、大県南遺跡、一須賀古墳群、郡川古墳、奈良では原田遺跡、京都の鴨田遺跡などがある。これらの遺跡には製鉄などの工房集落といった特殊生産遺跡に関連しているとみられている。また古墳群については渡来人系氏族の墓域と推定されている（註5）。さらに、田中清美氏も指摘されているように、この時期の韓式系土器は平底の深鉢や甕に限られている。このような特殊生産遺跡と関係する傾向は、陶質土器や瓦質土器においても甕など実用的なものを出土する遺跡、例えば奈良の前栽遺跡、滋賀の綾戸遺跡などにもあてはまる。なお綾戸遺跡は機織生産遺跡と推定されている（註6）。原田遺跡の場合、軟質土器は格子たたきの甕が3個体、把手が1点出土しており、後期的傾向とは若干異なるが、奈良県では平底の深鉢はほとんど出土しておらず、また先に上げたように前栽遺跡では瓦質土器が出土している点（註7）、大阪の状況とはかなり異なる傾向を見せており、渡来人流入時期やその出身地、あるいは土器の移入経路に若干の差があるように思われる。

このように古墳時代後期の韓式系土器、陶質土器出土遺跡には若干の例外があるものの中期に比べ、実用と供献用との明確な区別がその遺跡の性格によりはっきりしていることがわかる。このことについて西谷正氏が、古墳時代後期後半の陶質土器の出土例はわずかであるが、朝鮮半島に出自をもつ「古代家族」が独自に入手したものであるとの見解があるが（註8）、この見解は厳然たる

階層差のなかでより高位のものに該当し得ると思われる。西谷氏の見解を正しいと見ると、陶質土器をもった遺跡は古来の渡来人のうちかなり有力なものとするべきだろうし、軟質土器出土遺跡には少なくとも新来の渡来工人がかかわったと解釈するのが妥当だろう。

さらにここで古墳時代後期の韓式系土器、陶質土器の問題を原田遺跡との比較において掘り下げて考えてみたい。まず軟質土器については後期のなかでも前半に限られ、後半には見られなくなる。これは軟質土器が5世紀段階の渡来人の流入によってもたらされ、暫時日本化していったため、6世紀中頃にはその韓式系土器としての特徴を全く消失してしまっているためである(註9)。つまり後期前半の軟質土器出土の集落遺跡は中期段階の延長としてとらえるものが多い。先に述べたように、原田遺跡が他の軟質土器出土遺跡と同様に特殊生産遺跡である可能性は高いとしても、原田のものが後期後半のものであるとすると、これを同一傾向とすることには問題があるだろう。ただ唯一6世紀代の遺跡で比較的まとまった韓式系土器が出土している大県遺跡では、原田遺跡と同じような実用的な軟質土器、陶質土器がみついているが、大県遺跡の場合、5世紀よりの継続性がある。(註10) また、このことに関連して興味深い推定がなされている。すなわち墳墓出土の軟質土器、陶質土器のうち、後期後半のものとされる園部丸山古墳のものが伝世品ではないかということである(註11)。土器に伝世の対象となったかどうかについては今後検討せねばならないだろうが、そう考えるなら原田遺跡の蓋形土器も祭器として伝世していた可能性が考えられる。ただ軟質土器のような実用品をも同じようにとらえることにはかなり問題があるように思え、原田遺跡のように同じ遺構からの出土ではないにしても、同時期の遺構から出土している場合、別の要因を推定すべきだろう。

以上のように古墳時代後期の韓式系土器・陶質土器遺跡の性格を概観しつつ、原田遺跡出土の韓式系土器・陶質土器の解釈を試みたが、傾向としては古墳時代中期的色彩が濃く、後期のものとするとかかなり例外的な存在であることがわかる。

2. 蓋形陶質土器について

そこでさらに、原田遺跡出土の韓式系土器・陶質土器で最も問題のある遺物である、陶質蓋形土器について検討してみよう。蓋形土器は、とくにつまみ等の形態に特徴があり、朝鮮半島出土例との比較から、その大まかな地域が指摘されており、陶質土器研究には有効な遺物である。

原田遺跡SD-03出土の蓋形土器はつまみの中央部が突出し、そのまわりがややへこむ、また稜が断面三角形に張り出すものである。これと同様に特徴を畿内でも知られる。以下管見に触れたものについて、特に完形のものを中心にして見てみよう。

奈良では原田遺跡のほかに山田道遺跡(註12)、下明寺遺跡(註13)に見られる。1は山田道出土例で、河川跡から複数の韓式系土器と共に出土しており、共伴する遺物には須恵器が含まれておらず、須恵器出現直前の時期に比定されている。形態は、中心がごく僅かに突出する断面が逆台形

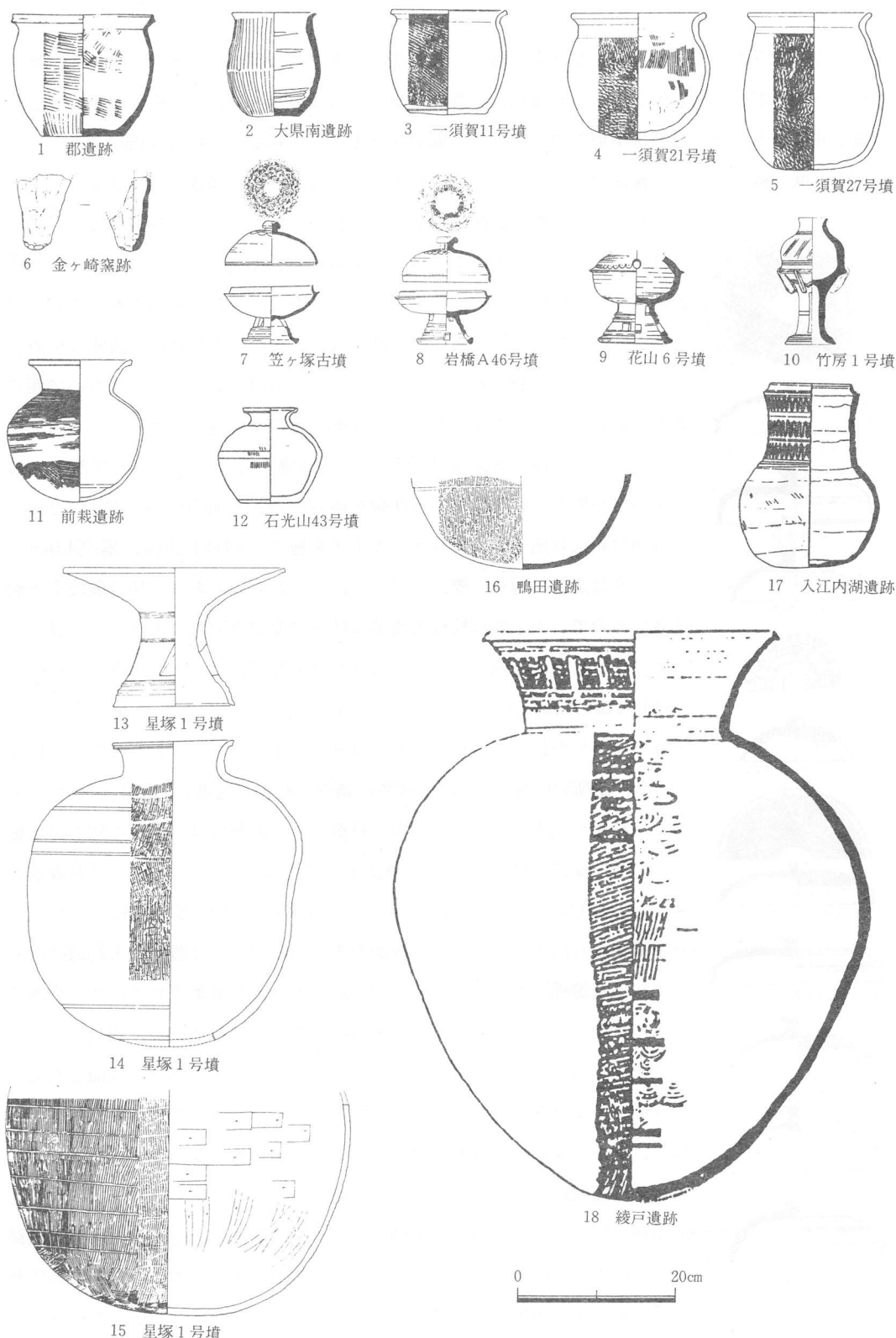


図45 古墳時代後期の韓式系土器・陶質土器（S=1/8）（各参考文献より引用）

状となるつまみをもち、天井部に波状文を施す。天井部波状文下には回転ヘラケズリを施す。稜線はやや丸みを帯びた三角形である。直径15cm、器高5cm。2は下明寺遺跡出土例で須恵器と瓦質の壺と共に出土した。形態は中央部のや突出した偏平なつまみに、平らな天井部、肩部より少し下った部分に低い稜をもち、口縁部はやや開きぎみに立ち上がる。口径14cm、高さ5cmを測る。

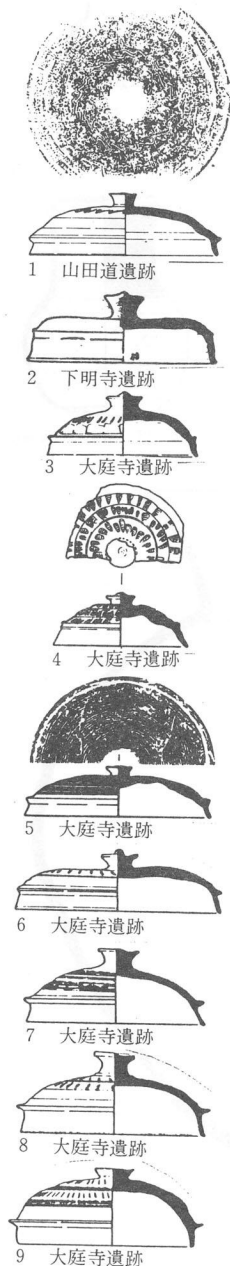


図46 蓋形土器1
(S: 1/6)
(各参考文献より引用)

大阪では、大庭寺遺跡よりかなりの数が出土しており、1987年度から1989年度調査では完形のもので4点、つまみの部分を欠くものも含むと11点が報告されている(註14)。さらにまた最近の調査では窯跡が検出され、これらの土器が朝鮮半島の土器の特色を色濃く残し、陶邑の中では最古段階に位置付けられるものと評価されている(註15)。3は旧河川から出土したもので報告者がA類に分類するものである。天井部に列点文を施し、静止ヘラケズリのちナデる。口径11.85cm、器高5.1cm。4は溝からの出土で、天井部に3段の刺突文を施す。刺突文間には沈線を巡らせる。口径10.7cm、器高4.2cm。5は包含層より出土し、天井部にカキメを施す。口径15.0cm、器高4.0cm。6から9は窯跡の調査の際、灰原より出土したものである。10は難波宮下層遺跡のもので、大手前高校校舎改築に伴う発掘調査の際に出土した。(註16) 数条のカキ目状の直線文により区画された天井部にはクシガキ列点文を施す。口径14.2cm、器高5.8cm。11は玉手山遺跡のもので天井部の丸みが強く、つまみの首がやや長い。(註17) 天井部は施文せずヘラケズリのみである。口径13.5cm、器高5.9cm。12は高屋城跡の調査の際、包含量より出土したものである。(註18) 大きく突出した稜線が特徴で、天井部にはクシガキ列点文を施す。口径12cm、器高4.3cm。13は城山7号墳周濠(註19)、14は八尾南遺跡より出土したもので、つまみを欠くがTK85号窯出土例に似る(註20)。15は三軒屋遺跡より出土している。口縁部を欠く(註21)。16は豊中・古池遺跡のもので河川状遺構岸部より出土した(註22)。天井部を数条のカキ目状の直線文により区画し、その両側にクシガキ列点文を施す。口径12cm、器高5cm。

和歌山では完形に復元できるものではなく、つまみの部分の欠損したものが8例、つまみ部分のみのものが1例ある。また完形品では、稜線が沈線となり、恐らく壺か台付き碗の蓋となる器高の高い天井部のドーム状のものが鳴神・音浦遺跡で出土している。17は園部丸山古墳(註23)、18・19は鳴神音浦遺跡(註24)、20は野田地区遺跡出土でつまみを欠く(註25)。21は東家遺跡よりの出土で口縁部を欠く(註26)。なお和歌山の蓋形土器について、武内雅人氏は紀ノ川上流域と下流域所在の遺跡でその形態が異なることを指摘されている(註11)。

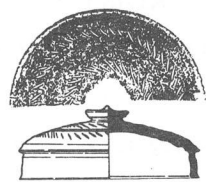
京都には現在のところ下鳥羽遺跡で2例確認されているに過ぎない(註27)。稜線の出に差があるものの両者ともほぼ同じプロポーシオンで出の大きいもののつまみが欠損している。22は出の小さいもので低湿地状遺構より出土している。天井部は丸みをもち、2条の沈線間にクシガキ列点文を施す。稜線は肩部と口縁端部との中間に位置し、他のものに比べかなり低い位置にある。口径14cm、器高5.8 cm。23は出の大きいものである。

滋賀にはバリエーションに富む蓋形土器が見られ、和歌山とともに近畿では特異な地域である。このタイプの蓋形土器は2例確認されており、またつまみを欠くものも1例見られる。24は服部遺跡で検出された円形周溝状遺構より出土したもので(註28)、施文は見られず、回転ヘラケズリを施したままのものである。口縁部はハ字状に開き、稜線は天井部の丸みの中に含まれ、段状となる。この土器について岩崎直哉氏は共伴した遺物から中村編年Ⅰ-4段階頃とされ、つまみの形態から消去法的に百済に系譜を求めようとされている(註29)。25は入江内湖遺跡で採集されたもので(註30)、天井部を4本の沈線で区画し沈線間にクシガキ列点文を施す。口縁部に最も近い沈線直下に僅かに隆起線が痕跡のように確認される。つまみは頂部が丸く突き出る。口径14.5cm、器高4.9 cm。定森秀夫氏はこの土器を搬入品とされている(註31)。

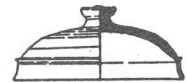
以上のように、先に上げた諸特徴を有する蓋形土器を見てみたが、つまみや稜線もふくめた形態にかなりの個体差があり、原田のものに酷似したものは見られない。また、数例を除きその他はすべて天井部に施文する点、原田例とは大きな隔たりを感じる。下明寺遺跡例、服部遺跡例、入江内湖遺跡例は若干年代の下がるものと見られているが、他は初期須恵器に先行、あるいは共伴し、また、帰属年代の不明なものもあるが、そうしてみると無文のものは年代の下がるものと考えるのが妥当だろう。しかしここに上げた資料のうち、6世紀前半より下がる遺構より出土したものは園部丸山古墳例以外にはなく、しかもこの土器は伝世されていると推定されるものであること、プロポーシオンがかなり異なることから系譜としてつながるものではない。また、プロポーシオンの点から見ると同じ奈良県より出土した下明寺遺跡が比較的似てはいるが、口縁部の開きが異なり、またその年代もはっきりしない。したがって現段階では、原田遺跡のものとの間を埋めるべき資料は見当たらない。

3. まとめ

原田遺跡の場合、少なくとも渡来人が、この地で生活していたであろうと考えることは問題ないだろう。ただ6世紀後半という時期でありながら、統一新



10 難波宮下層遺跡



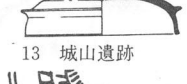
11 玉手山遺跡



12 高屋城跡



13 城山遺跡



14 八尾南遺跡



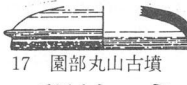
15 三軒屋遺跡



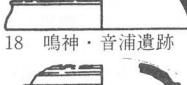
16 豊中・古池遺跡



17 園部丸山古墳



18 鳴神・音浦遺跡



19 鳴神・音浦遺跡



20 野田地区遺跡



21 東家遺跡

図47 蓋形土器2
(S: 1/6)

(各参考文献より引用一部改変)

羅系の陶質土器や百済系の土器ではなく、むしろ5世紀代の韓式系土器、陶質土器とみられる傾向の土器が出土していることに最大の不整合性が存在する。特に原田の蓋形土器を遺構の年代に帰属させる類例が見いだせないことは、須恵器として、これらの蓋形土器からその系譜を追うことができないということである。従って、その系譜を6世紀代の朝鮮半島の資料に求める必要があるが、筆者の管見の及ぶ範囲でそれに相当するものはなく、この点については今後の課題とせねばならない。

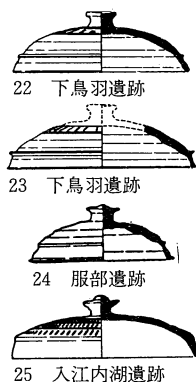


図48 蓋形土器3
(S: 1/6)

(各参考文献より引用) 動であったとみなすことができよう。また大泉遺跡の場合は、5世紀から6世紀、7世紀に至るまで国家的レベルが掌握されていたと見なすことができるのではないだろうか。

以上、まとめもなく明確な結論も見いだせないままに考察を終えることとなったが、最後にこの考察を書くに当たってご教示戴いた植野浩三氏、木下亘氏、関川尚功氏、竹谷俊夫氏に謝意を表します。

<註>

- 註1 関川尚功「奈良県下出土の初期須恵器」『考古学論攷』10 奈良県立橿原考古学研究所 1984年
- 註2 ここでは中期に中心を置き、後期まで継続した遺跡は除いた。
- 註3 明石市教育委員会『赤根川・金ヶ崎窯跡』1990年
- 註4 木下亘「陶質土器とその分布」『古墳時代の研究』6 雄山閣 1991年
- 註5 尾谷雅彦「一須賀古墳群出土の韓式系土器」『韓式系土器研究』Ⅱ 韓式系土器研究所 1989年
- 註6 文献142
- 註7 文献87
- 註8 西谷正「九州出土の朝鮮産陶質土器について」『九州文化史研究所紀要』29 1984年
- 註9 坪之内徹「韓式系土器と7世紀の土師器」『韓式系土器研究』Ⅱ 韓式系土器研究会 1989年
- 註10 北野重「大泉遺跡」「大泉南遺跡」『韓式系土器研究』Ⅰ 韓式系土器研究会 1987年
- 註11 武内雅人「和歌山県の初期須恵器・陶質土器・韓式系土器」『韓式系土器研究』Ⅱ 韓式系土器研究会 1989年
- 註12 文献113
- 註13 文献101

- 註14 文献38
- 註15 奥和乃「大庭寺遺跡の初期須恵器窯」『大阪府埋蔵文化財研究会(第25回)資料』1992年
- 註16 文献54
- 註17 柏原市教育委員会『柏原市埋蔵文化財調査概報』1982年度 1983年
- 註18 文献119
- 註19 文献31
- 註20 文献134・135
- 註21 文献54
- 註22 文献90
- 註23 文献75
- 註24 文献149
- 註25 文献150
- 註26 文献117
- 註27 文献56
- 註28 文献67
- 註29 文献8・9
- 註30 文献84
- 註31 定森秀夫「日本出土の“高霊タイプ”系陶質土器(1)」『朱雀』2 1989年

〔奈良県〕

遺 跡 名	所在地	遺 構（集 落）	（古墳）	包 含	器 種 名（陶 質・瓦 質）										（軟 質）				時 代		文 献																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
		溝・土井・住柱・流落・壕・戸・居・穴・路・込	主墳・周体・丘・溝・層		甗・高・蓋・碗・甕・壺・甌・器・鉢・甌・把・繩・平・格・平・鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行		鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・把・格・平・手・子・行	鉢・甕・壺・

〔京都府〕

遺 跡 名	所在地	遺構（集落）	（古墳）	包	遺物（陶質・瓦質）										遺物（軟質）	古墳	文献
		溝土井住柱流落 壕戸居穴路込	主墳周含 体丘濠層	環	高蓋碗甕壺	甕	甕	甕	甕	甕	甕	甕	甕	甕	甕	時代 前中後	
中堤遺跡	福知山市	採集													○	◇	125
曾我谷遺跡	園部町			○												○	74
穀塚古墳	京都市		採集		○										○		57
和泉式部町遺跡	京都市														○	◎	54
唐橋遺跡	京都市	○													○		54
下鳥羽遺跡	京都市		○		○	○	◎		○							●	56
中海道遺跡	向日市	○	○												◎	○	128
鴨田遺跡	向日市	○	○	○												○	129
長岡京左京二条大路	向日市			○	不明												130
井ノ内遺跡	長岡京市	○													○	○	125
今里庄ヶ瀬古墳	長岡京市		○												釜	○	58
陶器町遺跡	長岡京市	○													○		92
開田城ノ内遺跡	長岡京市			○											◎		91
開田遺跡	長岡京市	○													○		125
馬場遺跡	長岡京市	○													○	○	93
笠脇・松田遺跡	大山崎町	○	○												◎		125
燈明皿裏山4号墳	加茂町			○		○										○	50

※ 1) 出土器種（陶質・瓦質）の欄の○は陶質土器、●は瓦質土器を示す。なお、陶質土器には初期須恵器が含まれているものもある。

2) 時代の欄の◇は須恵器出現以前、●は初期須恵器が共存する時期、○は共存しない時期を示す。

3) ◎は複数箇所、複数個体を示す。

表 3 韓式系土器出土遺跡地名表 1（奈良県、京都府）

〔大阪府〕

遺 跡 名	所在地	遺 構（集 落）			(古墳)	包合	器種名（陶質・瓦質）										（軟質）				時代		文 献											
		溝	土井	住居			柱流	落	主	墳	周	環	高	蓋	碗	壺	甕	鉢	甗	把	格	平		縄	鉢	甗	壺	把	格	平	縄	手	子	行
嶋上川西遺跡	高槻市		○				○															○	○					●						12
安満遺跡	高槻市						○															○						●						81
郡遺跡	茨木市						○															○	○							○				6
垂水南遺跡	吹田市						○															○												141
五反島遺跡	吹田市	採集																				○												141
北条遺跡	豊中市	不明												○														◇						138
利倉西遺跡	豊中市								○								○											●						138
上津島遺跡	豊中市	採集																				○				○								89
茄子作遺跡	枚方市		○											○								○	○					●						123
交北城ノ山遺跡	枚方市						○			○			○															●						53
淀川河床遺跡	枚方市	採集																				○												53
讃良郡条里遺跡	寝屋川市	不明							不明													不明												86
高宮遺跡	寝屋川市	不明												○																				53
四條畷小学校遺跡	四條畷市	不明												○																				125
奈良井遺跡	四條畷市	○		○																		○	○					○	○					53
南野米崎遺跡	四條畷市	○												○								○	○					○						53
中野遺跡	四條畷市	○										○	○	○		○						○	○					○						53
岡山南遺跡	四條畷市	○						○	不明													不明						○						125
北新町遺跡	大東市	○											○	○														○						76
北条遺跡	大東市							○																	○			○	○					77
鍋田川遺跡	大東市	採集																							○									79
宮谷古墳群	大東市							○						○																				78
日下遺跡	東大阪市	○												○								○												47
芝ヶ丘遺跡	東大阪市	○	○	採集																		○	○		○			○	○				5	
西代遺跡	東大阪市	採集																							○								5	
神並遺跡	東大阪市			○	○						○											○	○	○					●				24	
鬼虎川遺跡	東大阪市	○		○							異形土器											○		○				○					25	
西ノ辻遺跡	東大阪市			○							○												○					○					25	
鬼塚遺跡	東大阪市							○															○	○				○					125	
水走遺跡	東大阪市							○																	○								125	
稲葉遺跡	東大阪市							○																○									26	
縄手遺跡	東大阪市	採集						○																		○		○	○	○			5	
北島池遺跡	東大阪市	不明																				○	○										125	
池島遺跡	東大阪市	○						○																		○			○				5	
新家遺跡	東大阪市	不明							不明													不明											125	
若江遺跡	東大阪市							○															○	○				○					125	
友井東遺跡	東大阪市	○																					○			○		○					29	
西ノ口遺跡	東大阪市	○																					○					○					125	
上町遺跡	東大阪市	不明							不明													不明											86	
茨田安田遺跡	大阪市			○																			○					●					14	
難波宮下層遺跡	大阪市	○						○	○													○	○		○		○		●				53	
大手前高校構内	大阪市							○	○	○	○	○	○									○	○	○	○	○	○	○	○				54	
高麗橋付近	大阪市	不明																				○	○		○								85	
馬場町遺跡	大阪市	採集							不明													不明											54	
森小路遺跡	大阪市	○						○															○	○				○					53	
瓜破遺跡	大阪市							○					○				○						○	○				○					53	
瓜破北遺跡	大阪市							○																	○				●				40	
長原遺跡	大阪市	○	○	○	○			○			○	○	○	○	○	○						○	○	○	○	○	○	○	○				28	
城山遺跡	大阪市	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○								○	○	○	○	○	○	○					31	
久宝寺北遺跡	八尾市		○	○	○					●			●									○	○	○				●					32	
久宝寺南遺跡	八尾市																					○					○						33	
亀井北遺跡	八尾市						○																○					○					34	
小阪合遺跡	八尾市	○	○																				○				●						136	
八尾南遺跡	八尾市	○	○					○		○	○	○		○								○	○		○		○						134	
高安郡川16号墳	八尾市				○																	○						○					53	
水越遺跡	八尾市						○																○				◇						125	
萱振遺跡	八尾市							○																		○		○	○				20	
大泉遺跡	柏原市	○	○					○														○	○	○	○	○	○	○					46	

※ 1) 出土器種（陶質・瓦質）の欄の○は陶質土器、●は瓦質土器を示す。なお、陶質土器には初期須恵器が含まれているものもある。
 2) 時代の欄の◇は須恵器出現以前、●は初期須恵器が共存する時期、○は共存しない時期を示す。
 3) ◎は複数箇所、複数個体を示す。

表 4 韓式系土器出土遺跡地名表 2（大阪府 1）

〔大阪府〕

遺 跡 名	所在地	遺 構（集 落）			(古墳)	包	器 種 名（陶 質・瓦 質）										（ 軟 質 ）					古 墳	時 代	文 献									
		溝	土井	住柱			流落	主墳	周含	坏	高蓋	碗	甕	壺	甕	鉢	甕	把	繩	平	格				鉢	甕	壺	把	繩	平	格		
		壕戸	居穴	路込			体	頂	溝層	坏	坏				甕	鉢	甕	把	繩	平	格				鉢	甕	壺	把	繩	平	格		
大県南遺跡	柏原市	○																		○							○					45	
国府遺跡	藤井寺市	採集																		○												141	
船橋遺跡	藤井寺市	採集					○					○								○						○						124	
土師の里遺跡	藤井寺市	○		○			○					○								○					○	●						22	
はさみ山遺跡	藤井寺市	○										○							○	○		○	○	○								16	
津堂遺跡	藤井寺市	○																	○													19	
野中古墳	藤井寺市					○	○			○	○	○	○	○	○				○		甕・高坏					●						55	
野中宮山古墳	藤井寺市						○		不明											不明												86	
上田町遺跡	松原市						○																									21	
高屋遺跡	羽曳野市						○													○			○									118	
高屋城遺跡	羽曳野市						○			○										○												119	
野々上遺跡	羽曳野市						○				○																					120	
一須賀11号墳	河南町						○													○												54	
一須賀21号墳	河南町						○													○												54	
一須賀27号墳	河南町						○													○												54	
神山遺跡	河南町	◎		◎	◎				◎										◎		◎	◎	◎			◎						27	
三日月遺跡	河内長野市		◎				○	○											◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	127	
堺環濠集落遺跡	堺市						○													◎	◎	◎	◎			◎						125	
四ッ池遺跡	堺市				○				◎	◎	◎	◎	◎		◎				◎	◎						◎						65	
大仙中町遺跡	堺市																															125	
土師遺跡	堺市	○																	○													125	
小阪遺跡	堺市	○	○	○	○	○				○	◎	◎	◎	◎					◎	◎	◎	◎				◎						35	
万崎池遺跡	堺市	○		○							◎																					30	
船尾西遺跡	堺市	○																		○												125	
伏尾遺跡	堺市	◎									●								◎	◎	◎	◎				◎						37	
大庭寺遺跡	堺市	◎	◎		◎									●				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	38	
水源池遺跡	高石市				○		○				◎											◎	◎									80	
大園遺跡	高石市										○												◎									15	
豊中・古池遺跡	泉大津市				○																	◎										90	
七ノ坪遺跡	泉大津市	○																			◎					◎						13	
信太山遺跡5号窯	和泉市	灰原																	◎													39	
府中遺跡	和泉市	○					○				◎	◎							◎													23	
石才南遺跡	貝塚市						○				◎																◎	◎					36
三軒屋遺跡	泉佐野市	○										◎									◎						◎	◎				54	
西小山遺跡	岬町					○						◎														◎						17	
淡輪遺跡	岬町	○									◎																◎					18	

〔兵庫県〕

遺 跡 名	所在地	遺 構（集 落）			(古墳)	包	器 種 名（陶 質・瓦 質）										（ 軟 質 ）			古 墳	時 代	文 献							
		溝・土	井・柱	住・流			落・主	墳・周	含	坏	高	蓋	碗	甕	壺	甕	器	鉢	甕				把	縄	平	格	鉢	甕	壺
		瀬戸	居	穴	路	込	体	丘	濠	層		坏																	
堂山遺跡	赤穂市									○																			1
蟻無山古墳	赤穂市							○							○	◎												●	1
宿禰塚古墳	相生市							○							◎													●	83
川島遺跡	太子町	○																			○	○					○	11	
国分台地遺跡	姫路市	不明									不明										不明								125
宮山古墳	姫路市							◎	○			◎			○	○	○										●	122	
岸遺跡	加古川市	採集																							○			7	
東神吉遺跡	加古川市	不明									不明										不明								125
砂部遺跡	加古川市	○	○		○							◎	○														●	43	
カンス塚古墳	加古川市					○										○											●	44	
印南野2号墳	加古川市					○						○				◎											●	42	
玉津田中遺跡	神戸市	○										○			○												○	125	
吉田南遺跡	神戸市			○						○					○	○										○		63	
出合遺跡	神戸市	◎		◎						○										○	○		○	○	○	○	○	●	48
神楽遺跡	神戸市	○	○	○		○				○					○	○					◎	◎	◎			◎	●	59	
森北町遺跡	神戸市			○	◎	○							◎	◎	◎						◎				○		○	○	49・60
郡家遺跡	神戸市				○																			○	○		○	61	
念仏山古墳	神戸市					不明				不明											不明							73	
笠ヶ塚古墳	芦屋市					採集						○	○														○	2	

※ 1) 出土器種（陶質・瓦質）の欄の○は陶質土器、●は瓦質土器を示す。なお、陶質土器には初期須恵器が含まれているものもある。

2) 時代の欄の◇は須恵器出現以前、●は初期須恵器が共存する時期、○は共存しない時期を示す。

3) ◎は複数箇所、複数個体を示す。

表 5 韓式系土器出土遺跡地名表 3（大阪府 2、兵庫県）

(和歌山県)

遺 跡 名	所在地	遺 跡 (集 落)				(古墳)包	遺物 (陶質・瓦質)										遺物 (軟質)				古墳時代	文 献
		溝・土	井・住	柱・流	落・達	主・墳	周・壕	環・高	蓋・碗	甕・壺	甕・壺	甕・壺	甕・壺	甕・壺	甕・壺	甕・壺	甕・壺	甕・壺	甕・壺	甕・壺		
楠見遺跡	和歌山市	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					○	52
大同寺遺跡	和歌山市	不明						○	○	○	○	○	○								○	52
鳴滝遺跡	和歌山市			○					○	○	○	○					○				○	148
鳴滝 1・2 号墳	和歌山市						○	○	○	○	○					不明						144
園部丸山古墳	和歌山市				○			○													○	75
田屋遺跡	和歌山市			○											○				○		○	125
西田井遺跡	和歌山市	○															○				○	146
鳴神地区遺跡	和歌山市	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	149
大日山 I 遺跡	和歌山市	○		○													○	○			○	151
花山 6 号墳	和歌山市				○						○										○	151
岩橋前山 A 46 号墳	和歌山市				○			○	○												○	52
井辺前山 6 号墳	和歌山市				○											○					○	145
吉礼砂羅谷窯跡群	和歌山市	採集								○												51
カンス塚古墳	和歌山市	採集														○						51
竹房 1 号墳	打出町	不明								○											○	140
東塚遺跡	橋本市		○				○	○	○	○	○	○	○								●	117
陵山古墳	橋本市				○					○	○										●	116
垂井女房が坪遺跡	橋本市					○		○													○	152
山崎山 5 号墳	海南市				○		○														◇	147
山崎山 8—II 号墳	海南市				○					○	○	○									●	147
岡村遺跡	海南市					○				○												41
野田地区遺跡	吉備町	○					○	○	○	○											○	150
富安 I 遺跡	御坊市	○	○					○	○	○	○	○				○	○				●	62
鳳生寺山古墳群	御坊市	不明								○	○										●	64
片山遺跡	南部町					○				○											●	143
磯間岩陰遺跡	田辺市				○					○												143

(滋賀県)

遺 跡 名	所在地	遺 構 (集 落)				(古墳)包	遺物 (陶質・瓦質)										遺物 (軟質)				古墳時代	文 献
		溝・土	井・住	柱・流	落・達	主・墳	周・壕	環・高	蓋・碗	甕・壺	甕・壺	甕・壺	甕・壺	甕・壺	甕・壺	甕・壺	甕・壺	甕・壺	甕・壺	甕・壺		
中小路遺跡	近江八幡市	採集						○	○													126
ステラ遺跡	近江八幡市	採集						○	○													126
塚町南遺跡	近江八幡市	○								○											○	66
岡山西 2 号墳	近江八幡市				○					○											○	8・9
綾戸遺跡	竜王町					○				○											○	142
五条遺跡	中主町			○												不明					○	10
服部遺跡	守山市					○				○	○										○	67
寺中遺跡	守山市	○															○				○	132
吉身北遺跡	守山市						○										○				○	133
播磨田東遺跡	守山市		○				○									○		○			●	131
市三宅東遺跡	野洲町	○	○							○							○	○			●	137
富波遺跡	野洲町	○															○				○	10
江部西遺跡	野洲町	不明														不明					○	10
下線子遺跡	野洲町					○										不明					○	10
辻遺跡	栗東町	○	○		○			不明								不明					●	10
高野遺跡	栗東町					○										不明					○	10
入江内湖遺跡	米原町	採集						○	○	○												84
山之脇遺跡	彦根市	採集						○														8・9
鴨遺跡	高島町	○						○													●	72
常楽寺山 1 号墳	安土町					○	○					○									●	3
高月南遺跡	高月町	○								○											●	8・9
南市東遺跡	安曇川町	○	○					○	○	○	○	○				○					●	4
桜内遺跡	余呉町							○														125
越前塚古墳	長浜市									○												9

- ※ 1) 出土器種 (陶質・瓦質) の欄の○は陶質土器、●は瓦質土器を示す。なお、陶質土器には初期須恵器が含まれているものもある。
2) 時代の欄の◇は須恵器出現以前、●は初期須恵器が共存する時期、○は共存しない時期を示す。
3) ◎は複数箇所、複数個体を示す。

表 6 韓式系土器出土遺跡地名表 4 (和歌山県、滋賀県)

「韓式系土器出土遺跡 参考文献」

1. 赤穂市史編纂委員会『赤穂市史』第4巻 1984年
2. 芦屋市史編纂委員会『新修芦屋市史』資料編1 1976年
3. 安土町教育委員会『常楽寺山古墳群調査報告』1977年
4. 安曇町教育委員会『南市東遺跡発掘調査概要』1979年
5. 阿部嗣治「東大阪市出土の漢式系土器について」『東大阪市遺跡保護調査会年報1979年度』1980年
6. 茨木市教育委員会『茨木市郡遺跡発掘調査概報』1978年
7. 今里幾次「播磨弥生式土器の動態」『考古学研究』15-4 1969年
8. 岩崎直也「地方窯の上限と系譜を求めて（Ⅰ）」『滋賀考古学論叢』第2集 1985年
9. 岩崎直也「地方窯の上限と系譜を求めて（Ⅱ）」『滋賀考古学論叢』第3集 1986年
10. 岩崎直也「近江出土の韓式系土器の概況」『第5回近畿埋蔵文化財研究会資料』1987年
11. 植野浩三「韓式系土器についての予察」『奈良大学紀要』12 1983年
12. 大阪府教育委員会『鴨上郡跡発掘調査概要・Ⅱ』1972年『同・Ⅲ』1973年
13. 大阪府教育委員会『七ノ坪遺跡発掘調査概要』1974年
14. 大阪府教育委員会『茨田安田遺跡発掘調査概要』1975年
15. 大阪府教育委員会『大園遺跡発掘調査概要Ⅲ』1976年『同Ⅵ』1981年
16. 大阪府教育委員会『挟山遺跡発掘調査概要Ⅴ』1979年
17. 大阪府教育委員会『淡輪遺跡発掘調査概要Ⅲ』1981年
18. 大阪府教育委員会『淡輪遺跡発掘調査概要Ⅵ』1984年
19. 大阪府教育委員会『大阪府文化財調査概要・1983年度』1984年
20. 大阪府教育委員会『萱振遺跡発掘調査概要Ⅱ』1984年
21. 大阪府教育委員会『上田町遺跡発掘調査概要』1984年
22. 大阪府教育委員会『土師の里遺跡発掘調査概要・Ⅻ』1985年
23. 大阪府教育委員会『府中遺跡発掘調査概要』1985年
24. 大阪府教育委員会『神並・西ノ辻・鬼虎川遺跡発掘調査概要・Ⅰ』1985年
25. 大阪府教育委員会『神並・西ノ辻・鬼虎川遺跡発掘調査概要・Ⅱ』1986年
26. 大阪府教育委員会『稲葉遺跡発掘調査概要Ⅰ』1986年
27. 大阪府教育委員会『神山遺跡発掘調査概要Ⅰ』1988年『同・Ⅱ』1989年
28. 大阪府文化財センター『長原』1978年
29. 大阪府文化財センター『友井東（その1）』1984年
30. 大阪府文化財センター『府道松原泉大津線関連遺跡発掘調査報告書Ⅰ』1984年
31. 大阪府文化財センター『城山（その1・その2）』1986年
32. 大阪府文化財センター『久宝寺北（その1～3）』1987年
33. 大阪府文化財センター『久宝寺南（その1）』1987年
34. 大阪府文化財センター『亀井北（その1）』1986年
35. 大阪府文化財センター『小阪遺跡（その5）』1988年
36. 大阪府埋蔵文化財協会『石才南遺跡』1988年
37. 大阪府埋蔵文化財協会『陶邑・伏尾遺跡A地区』1990年
38. 大阪府埋蔵文化財協会『陶邑・大庭寺遺跡』1989年
39. 大阪府埋蔵文化財協会『泉州の遺跡』1986年
40. 大阪府文化財協会『瓜破北遺跡Ⅱ』1980年
41. 海田市教育委員会『岡村遺跡範囲確認調査概報』1980年
42. 加古川市教育委員会『印南野Ⅰ』1965年
43. 加古川市教育委員会『加古川市砂部遺跡』1978年
44. 加古川市教育委員会『加古川市カンス塚古墳発掘調査概要』1985年
45. 柏原市教育委員会『大県・大県南遺跡』1985年
46. 柏原市教育委員会『大県遺跡』1985年 1988年
47. 堅田直『日下遺跡発掘調査概要』1967年
48. 鎌木義昌・亀田修一「播磨出合遺跡出土の「陶質土器」・朝鮮三国系軟質土器初期須恵器」『古文化談叢』第18集 九州古文化研究会 1987年
49. 鎌木義昌・亀田修一「神戸市森北町遺跡出土陶質土器・軟質土器」『古文化談叢』第20集（下）九州古文化研究会 1988年
50. 加茂町教育委員会『加茂町文化財報告』第3集 1986年
51. 河内一浩「和歌山県における古墳時代中期の埴輪生産の様相」『花園史学』第8号 1987年
52. 関西大学考古学研究室『和歌山における古墳文化』1972年
53. 韓式系土器研究会『韓式系土器研究Ⅰ』1987年
54. 韓式系土器研究会『韓式系土器研究Ⅱ』1989年
55. 北野耕平『河内野中古墳の研究』大阪大学国史研究室研究報告第2冊 1976年
56. 大阪府埋蔵文化財研究所『下鳥羽遺跡発掘調査概報』1988年
57. 京都府『京都府史蹟勝地調査会報告』第2冊 1920年
58. 京都府教育委員会『埋蔵文化財発掘調査概要（1980-1）』1980年
59. 神戸市教育委員会『昭和59年度 神戸市埋蔵文化財年報』1987年
60. 神戸市教育委員会『昭和60年度 神戸市埋蔵文化財年報』1988年
61. 神戸市教育委員会『昭和61年度 神戸市埋蔵文化財年報』1989年
62. 御坊市教育委員会『昭和57年度安富Ⅰ遺跡他発掘調査概報』1983年
63. 神戸市立考古館『地下にねむる神戸の歴史展』1980年
64. 御坊市『御坊市史』第3巻 1981年
65. 堺市教育委員会『四ツ池遺跡』堺市文化財調査報告 第16集 1984年
66. 滋賀県教育委員会『県営干拓地等農地整備事業関係発掘調査報告Ⅱ』1985年
67. 滋賀県教育委員会『服部遺跡発掘調査報告Ⅵ』1985年
68. 近藤滋「岡山城跡・岡山古墳群」『びわこと埋蔵文化財』（大阪府埋蔵文化財センター）1984年
69. 桜井市教育委員会『芝遺跡』1986年
70. 四條畷市教育委員会『正法寺跡発掘調査概要・Ⅱ』1978年
71. 清水真一「桜井市上之宮遺跡出土の瓦質土器について」『古文化談叢』第20集（中）九州古文化研究会 1989年
72. 白井忠雄「高島郡高島町鴨遺跡出土の陶質土器について」『滋賀文化財だより』47 1981年
73. 新修神戸市史編集委員会『新修神戸市史』歴史編Ⅰ 1989年
74. 園部町教育委員会『園部町埋蔵文化財調査報告書』第2集 1977年
75. 園部丸山古墳保存会『園部丸山古墳調査概報』1989年
76. 大東市北新町遺跡調査会『大東市北新町遺跡第1次発掘調査概要報告書』1986年
77. 大東市教育委員会『寺川・北条遺跡発掘調査報告書』1987年

78. 大東市教育委員会『宮谷古墳群調査報告書』1988年
79. 大東市教育委員会『寺川・鍋田山遺跡発掘調査報告書』1991年
80. 高石市水道部『水源地遺跡発掘調査報告』1985年
81. 高槻市教育委員会『嶋上郡衙跡他関連遺跡発掘調査概要・7』1983年
82. 竹谷俊夫『布留遺跡出土の初期須恵器と韓式系土器』考古学研究中間報告8 埋蔵文化財天理教財団 1983年
83. 龍野市史編纂委員会『龍野市史』第4巻 1984年
84. 田中勝弘『入江内湖遺跡とその遺物』『滋賀考古学論叢』第3集 1986年
85. 田中清美『東区高麗橋1丁目出土の韓式系土器』『葦火』17号 (財)大阪市文化財協会 1988年
86. 田中清美『5世紀における摂津・河内の開発と渡来人』『ヒストリア』125 1989年
87. 天理市教育委員会『前栽遺跡』1977年
88. 天理市教育委員会『星塚・小路遺跡の調査』1990年
89. 豊中市史編纂委員会『豊中市史』史料編I 1960年
90. 豊中・古池遺跡調査会『豊中・古池遺跡発掘調査概要そのⅢ』1976年
91. 長岡京市教育委員会『長岡京市文化財調査報告書』第9集 1982年
92. (財)長岡京市埋蔵文化財センター『長岡京市埋蔵文化財センター年報 昭和58年度』1984年
93. (財)長岡京市埋蔵文化財センター『長岡京市埋蔵文化財調査報告書』第2集 1985年
94. 中村浩『近畿の初期須恵器』『古代窯業史の研究』1985年
95. 奈良県立橿原考古学研究所『葛城・石光山古墳群』史跡名勝天然記念物調査報告31 1976年
96. 奈良県立橿原考古学研究所『桜井外鎌山麓古墳群』史跡名勝天然記念物調査報告34 1978年
97. 奈良県立橿原考古学研究所『大福遺跡』史跡名勝天然記念物調査報告36 1978年
98. 奈良県立橿原考古学研究所『新沢千塚古墳群』史跡名勝天然記念物調査報告39 1980年
99. 奈良県立橿原考古学研究所『和邇・森本遺跡』史跡名勝天然記念物調査報告45 1984年
100. 奈良県立橿原考古学研究所『矢部遺跡』史跡名勝天然記念物調査報告49 1986年
101. 奈良県教育委員会『史跡名勝天然記念物調査報告抄報』第9号 1956年
102. 奈良県立橿原考古学研究所『奈良県遺跡調査概報』1981年度 第1・2分冊 1983年
103. 奈良県立橿原考古学研究所『奈良県遺跡調査概報』1983年度 第1・2分冊 1984年
104. 奈良県立橿原考古学研究所『奈良県遺跡調査概報』1986年度 第1・2分冊 1989年
105. 奈良国立文化財研究所『平城宮発掘調査報告I』1961年
106. 奈良国立文化財研究所『飛鳥・藤原宮発掘調査概報』Ⅲ 1980年
107. 奈良国立文化財研究所『飛鳥・藤原宮発掘調査概報』4 1974年
108. 奈良国立文化財研究所『飛鳥・藤原宮発掘調査概報』5 1975年
109. 奈良国立文化財研究所『飛鳥・藤原宮発掘調査概報』12 1982年
110. 奈良国立文化財研究所『飛鳥・藤原宮発掘調査概報』14 1984年
111. 奈良国立文化財研究所『飛鳥・藤原宮発掘調査概報』15 1985年
112. 奈良国立文化財研究所『飛鳥・藤原宮発掘調査概報』16 1986年
113. 奈良国立文化財研究所『飛鳥・藤原宮発掘調査概報』21 1991年
114. 奈良市教育委員会『奈良市埋蔵文化財調査報告書 昭和59年度』1985年
115. 日本考古学会『日本考古学会年報36』1986年
116. 橋本市教育委員会『陵山古墳発掘調査概要』1974年
117. 橋本市教育委員会『東家遺跡発掘調査概報』1984年
118. 羽曳野市教育委員会『古市遺跡群Ⅲ』1981年
119. 羽曳野市教育委員会『古市遺跡群Ⅵ』1985年
120. 羽曳野市教育委員会『古市遺跡群Ⅸ』1988年
121. (財)東大阪市文化財協会『(財)東大阪市文化財協会年報』1983年度 1984年
122. 姫路市教育委員会『宮本古墳発掘調査概報』1970年『同第2次発掘調査概報』1973年
123. 枚方市史編纂委員会『枚方市史』第12巻 1986年
124. 平安学園考古学クラブ『船橋Ⅱ』1962年
125. 埋蔵文化財研究会『弥生・古墳時代の大陸系土器の諸問題』第Ⅱ分冊 1987年
126. 丸山竜平『近江八幡市郷土資料館の陳列品にみる特異な須恵器について』『滋賀県考古学論叢』第2集 1985年
127. 三田市遺跡調査会『三田市遺跡発掘調査報告書』I 1988年
128. 向日市教育委員会『向日市埋蔵文化財調査報告書』第13集 1984年
129. 向日市教育委員会『向日市埋蔵文化財調査報告書』第17集 1985年
130. 向日市教育委員会『向日市埋蔵文化財調査報告書』第18集 1986年
131. 守山市教育委員会『播磨田東遺跡発掘調査報告書』守山市文化財調査報告書第13冊 1983年
132. 守山市教育委員会『昭和59年度国庫補助事業関連遺跡発掘調査報告書』1986年
133. 守山市教育委員会『守山市文化財調査報告書』第21冊 1986年
134. 八尾市南遺跡調査会『八尾南遺跡』1983年
135. (財)八尾市文化財調査研究会『八尾市埋蔵文化財発掘調査概要報告昭和59年度』1985年
136. (財)八尾市文化財調査研究会『昭和59年度事業報告』1985年
137. 野洲町教育委員会『市三宅東遺跡発掘調査報告書-2』『同-5』1990年
138. 柳本照男『布留式土器に関する一試考』『ヒストリア』101号 大阪歴史学会 1983年
139. 大和郡山市教育委員会『原田遺跡発掘調査報告書』1992年
140. 吉田宣夫『那賀郡打出町所在竹房古墳群の調査』『和歌山県埋蔵文化財情報』15 1981年
141. 米田文孝『所謂漢韓系土器の一例』『阡陵』関西大学考古学等資料室 1982年
142. 竜王町史編纂委員会『竜王町史』上巻 1987年
143. 和歌山県史編纂委員会『和歌山県史』考古資料 1983年
144. 和歌山県教育委員会『和歌山県文化財学術調査報告』第2冊 1967年
145. 和歌山県教育委員会『昭和41年度埋蔵文化財緊急発掘調査概報』1967年
146. 和歌山県教育委員会『近畿自動車道和歌山線埋蔵文化財地区報告』1972年
147. 和歌山県教育委員会『山崎山古墳群緊急発掘調査報告書』1978年
148. 和歌山県教育委員会『鳴滝遺跡発掘調査概要』1983年
149. 和歌山県教育委員会『鳴神地区遺跡発掘調査報告書』1984年
150. 和歌山県教育委員会『野田・藤並地区発掘調査報告書』1985年
151. 和歌山県教育委員会『岩橋千塚』1967年
152. (財)和歌山県文化財研究所『埋蔵文化財情報』14 1979年